

平和行政と 平和学習を問う

答 今後も平和発信事業を継続して推進する



當眞 嗣春 議員

問 住民を巻き込んだ沖縄戦の実相と教訓を問う。

町長 沖縄戦の惨禍は二度と繰り返してはならないと強く認識している。その悲惨な実相や教訓、恒久平和の尊さを再認識し、次世代へと引き継いでいくことが私たちの役割だと考えている。

問 教育への不当な介入を許さず、学校現場を委縮させないためにどう取り組むのかを問う。

町長 これまで同様学校現場が萎縮することなく、平和学習等を推進し、子どもたちが多様な現状や意見に触れ、自ら考え判断する力を育む教育を継続していく。

問 町長の見解としては、この教育基本法第14条第2項の違反に当たらないという認識でよいのか。

町長 痛ましい事故だと思っておりますけれども、議員のおっしゃるとおりである。



慰霊祈和の塔

問 高市政権の下で、改憲と戦争国家づくりの危険性が高まっている。「再び戦争の惨禍を繰り返さない」という町長の認識を問う。

町長 日本国憲法に刻まれた不戦の誓いは、恒久平和を実現するための重要な理念であると認識している。

基地問題を問う

問 「平和で豊かな沖縄の実現に向けた新たな建議書」を作成し、これを日米両政府に提出をしている。この建議書に対する町長の見解を問う。

町長 建議書には、復帰当時の先人たちの願いや、現在の県民が抱える基地問題や、経済格差などの課題が記載されているものだと認識している。

問 普天間基地と辺野古新基地建設に対する町長の賛否を問う。

町長 地元の意向や様々な意見があると認識していることから、私が発言する立場ではないと思っている。

4年間を振り返って

町民のご支援に支えられ、この4年間議員としての役割を無事に全うすることができました。心より深く感謝申し上げます。